

# NARITA AIRPORT MINAMI

2014-15  
成田空港南 RC  
会長テーマ

# 敬



昭和 41 年 10 月 6 日設立 / 昭和 41 年 11 月 21 日承認  
例会日時 毎週木曜 12:30 点鐘  
(最終例会 18:30 点鐘)  
例会場 中国ダイニング富士屋

事務局  
〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝 1519-6  
TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178  
第 2790 地区ガバナー 宇佐見透 第 6 分区ガバナー補佐 諏訪武士

URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>  
e-mail [info@narita-airport-m-rc.jp](mailto:info@narita-airport-m-rc.jp)

平成 27 年 3 月 26 日発行 NO. 2124 第 2252 例会 会長 行木 英夫 幹事 小川 佐内 会報委員長 小杉 秀文

## 例会報告(平成 27 年 3 月 26 日)

## 会長挨拶

### 移動例会

### 及び 菅原工芸硝子(株)工場見学

11:30 ロータリー事務所バス出発

12:30 菅原工芸硝子(株)会議室

点 鐘	会 長	行木英夫
ソ ン グ	「奉仕の理想」	
唱 和	「四つのテスト」	
会長挨拶	会 長	行木英夫
幹事報告	幹 事	小川佐内
プログラム		

各委員会報告

卓話 (菅原工芸硝子(株)会長 菅原實様)



今日は、移動例会という事で、菅原工芸硝子の菅原会長には、なにからなにまでご面倒お掛けし、又、このような素晴らしい例会場までご用意いただき、心より感謝申し上げます。

今日の移動例会は、職業奉仕委員会の事業であり、例会終了後、菅原工芸硝子様の工場見学、その後、ファクトリーショップによっていただきます。菅原工芸硝子さんは、昭和 36 年に東京・亀戸より当地、九十九里町藤下に新工場を設立し、54 年になるそうです。今日皆さんに工場見学をしていただき、そして、ファクトリーショップの作品 1 つ 1 つを見ていただければ、この作品を通して多くの人との繋がり、菅原様の職業人としての半世紀と職業奉仕の何かを、皆様は感じ取る事ができるのではないかと思います。又、展示ショップにて気に入った作品が有りましたら、ぜひお買い求めください。それでは菅原様このあと「卓話」よろしく願い致します。



## 幹事報告

今日は菅原工芸硝子さんにおじゃませて頂きありがとうございます。本日の幹事報告はございません。この後、菅原会長の卓話をじっくり聞いて頂ければと思います。





菅原工業硝子株式会社  
会長 菅原 實 様  
(東金ロータリークラブ)

菅原でございます。東金ロータリークラブに所属しております。毎年合同例会でお目にかかっていると思いますけれども、改めて当社にお越し頂きました。本当にありがとうございます。

当社の紹介をさせて頂きたいと思っております。よろしくお願ひ致します。今、会長から少しご案内いただきましたが、創業を始めてから53年になります。昭和36年にこの土地を取得してから翌年の37年に創業を開始いたしました。スタートは江東区亀戸で私の父が始めたわけですが、昭和7年でございますから創業して83年ということ、結構古い企業になったのかなと思います。申し上げました通りここで53年。なぜ九十九里に来たのかとよく聞かれるのですが、特段の理由はございません。ここに原料があるわけでもありませんし、茂原と違いガスが出るということもありません。唯一の理由は、昭和30年後半、当時の私共の働く中心は中卒でありました。中卒が金の卵と言われた時代で、中卒の争奪戦ということになってきました。高度成長で経済活動が盛んになり、人が足りない。昭和20年代終わり頃は、就職列車で東北からたくさん人が来ました。それが昭和30年代後半は手に入らなくなった。地方に行った方が得られるのではないかというのが唯一の理由であります。ここに来まして、確かに中卒はかなり集まりましたけれども、後程工場を見ていただくとわかると思いますが、ガラスを作るということは大変な仕事なのです。3Kなんてものではなく、炉をもっていますので夏は45度以上、だれでも逃げ出したくなります。そのような所で、学校を卒業し、4月に来てやってみたところ、夏になっ

たら逃げだす人が続出するわけでありまして。しかも機械ではなく、手で作るわけです。体を使わないと物ができない仕事ですから大変なものです。我々の歴史はいかにして人を確保するかということが一番の仕事です。

昭和37年からここで作り始めたわけですが、問屋を中心とした流通で、問屋が商品開発をして工場に発注する。在庫をして全国にディストリビュートする。一般的な形で、私共もそれでやってきたのですが、大きく変わったのは昭和48年暮れ近くの第一次オイルショックであります。昭和49年は、物が高くなって売れないという大変なことになりました。私共、問屋さんからの受注が半減しました。どうするか？ 半分になったのではやっていけないが、安売りは絶対しないということでやってきましたので、どういう道を選ぶか？ これはチャンスだと思いました。どういうことかと言いますと、それまでは問屋さんが商品開発をし、と言ってもヨーロッパに行って似たようなものを仕入れこれを作ってくれというわけです。我々が新しい面白いものを作っても問屋さんがいいと言ってくれないと市場には出ないわけです。そのようなフラストレーションがあったわけです。自分で作りたいものを作ろうという事にしたのが昭和49年のことでありました。問屋に対して宣戦布告を致しました。買ってくれなくて結構です。うちで作りたいものを作り自分で売ろうという事にしました。問屋を自分でやろうと決意いたしました。販売の会社を作り、大きく方向を転換致しました。ですが、問屋からはブーイングであり。菅原憎し、つぶせ。という事で大変な思いをいたしました。職人を中心とした開発研究会を作りまして、とにかく新しいものを作ろう。そうしましたら、職人たちも作りたいものを作れるという喜びが出てきて、たくさん新製品が出ました。そこで大ヒットする商品が出まして、問屋の方も扱わざるを得ないということになりました。そのようなことでラッキーな船出が出来ました。問屋中心だったものを脱して、出来るだけ自分で販売する。直接販売と言っても小売店に売るという問屋業も自分のところでやるという事でありました。

その後ヒット商品がたくさん出ました。どうしてかということ、ガラスとは非常に特殊な物質で、液体です。これから見て頂いたらわかりますが、炉の中には1200度ぐらいのドロドロの溶けたガラスが入っています。まさに液体なのです。物は液体から個体

になる時にほとんどの物は結晶になるのですが、ガラスは結晶になりません。1200度ぐらいのものが空気に触れて600度ぐらいで固まり個体になります。が、液体と固体の境がはっきりしないのです。普通の物質ははっきりしたものがあり、たとえばアルミニウムは660度ぐらいで液体から個体になります。ガラスには凝固点融点というものがありません。液体と固体の境がないのです。他の物質と大きく違います。非常に扱いにくいもので、高温ですから手作りと言っても手で触る事が出来ません。逆に液体ですからどんなものにでも変わる可能性があります。いろんな表情が作り出せる可能性がある。それは問屋さんやデザイナーには絶対わからない、毎日扱っている職人でなければわからない事。職人に新しいことをやってみよう。やってみますというんな事が出来ます。職人にも面白さがわかってきた。問屋さんにはわからないことが次々と生み出すことができた。これが大きな転機でありました。その次の転機が、昭和60年頃、59年に小売店を初めて始めました。六本木のロアビルの中に縁があって小さな店を出す事が出来ました。これが次の転機であります。というのは昭和60年、黒いガラス、白いガラスを作りました。これが海外でバカ受けし、これが輸出の大きな力になりました。そして昭和49年から始めた問屋の時代は、喫茶店全盛の時代で、始めたころは喫茶店で使うものが多かった。60年頃から白黒のシンプルモダンみたいな方向転換しました。と同時に縁がありまして、チェコから職人を呼び技術交流も始めました。先程、我々の歴史の中で人集めが一番大変な仕事だったと申しあげましたが、中卒中心から進学により高卒中心となり、近隣の高校を回り、一所懸命人集めをするのですが大変な労働のため定着しない。困っていたところ63年、ヨーロッパのグラビールを学びたいと思い社会主義時代で大変なチェコから二人の職人を呼びました。ものすごくびっくりする技術を持っていましたが、共産主義では提案しても上司はめんどくさがり机の中にしまっただけで評価されない。共産党が大嫌いだと言っておりました。ではどのようにして技術を覚えたのか？と聞きましたら、ガラスの学校で勉強をし、国営の工場に入り、仕事は6時から始まりますが、5時に行って1時間練習をする。しかし全く評価されない。ガラスを作るのに一番大事なことはなんだ？と聞きましたら、興味だと言った。これに私はショッ

クを受けました。当たり前のことですが、なるほど評価されなくても興味があれば練習してこんなふうになれるのだ。と目からウロコの感じでありました。興味のある者を集めればいいのだと一切高校への求人をやめまして、物作りに興味があるだろう美術大学・専門学校に絞りました。アーティストになりたい人ばかりかと思っておりましたが、必ずしもそうではなく、物作りが好きで職人になりたい人もたくさんいる事がわかりました。一挙に人の問題が解決いたしました。今は全国から選考に大変なぐらい人が集まってくれるようになりました。

これから工場を見ていただきます。私共中心となるのは職人です。職人という言葉から年寄りのおじいさんをイメージするかと思いますが、ちょっと違っていて、ほとんどの職人が美術を勉強してきております。もちろん我々は美大でなければいけないという事は全くありません。とにかくガラスが好きで、物づくりが好きでしょうがないという人に集まってもらっています。そうするとどんな苦労でもできるんですね。

応募条件は、夏の暑いときに会社訪問をして頂き大変な所を見てもらう。うちは宿舎をもっておりませんから、田舎ですがアパート代も結構かかります。それでもよかったら応募してください。

それぐらいの熱意のある人でなければ絶対耐えられません。逆にそれだけの興味があると、8時から工場が始まりますが、新人は6時、6時半にきて自分で練習しています。それぐらいの意欲がないとできない仕事です。今の若い者はとよく言いますが、そういう人たちを見ると、若い人も捨てたものではない。やりたいことが見つければすごい頑張りができるのだという気がいたします。

我々の一番のコンセプトは、自分達で作りたい物を作ろう。受注生産は基本的には致しません。毎日の生活の中で使ってもらい豊かな気持ちになってもらう物を作っていこうと思っています。手作りなので安くはできません。大学を出てくるので一番コストがかかります。毎日使ってもらうためにはリーズナブルな価格でなければいけない。

工場見学や製作体験は、観光のためではなく、自分の意思で来て頂くファン作りが目的です。



## ニコニコボックス

青柳誠君・越川博光君・齋藤逸朗君・土屋俊夫君  
 鈴木恭一君・小林定雄君・石田喜一君・前川成吉君  
 古西弘和君・行木英夫君・市原豊彦君・伊藤元雄君  
 高田一行君・小川佐内君・小杉秀文君・安藤卓造君  
 花澤昇一君・上原広嗣君・鈴木匡哉君

…菅原会長卓話ありがとうございます

菅原實様より

本日計	25,000 円
累計	743,089 円

